

作成日：2025/7/17

作成者：小久保 聡

事業報告書

日 付	2025 年 7 月 11 日（金）	時 間	15：00～16：30
場 所	あけぼのビル 501 会議室	出席者	出席者名簿参照
議 題	埼玉県環境部産業廃棄物指導課・埼玉県環境産業振興協会青年部 令和 7 年度 座談会		

内 容

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 産業廃棄物指導課課長挨拶
4. 協会事務局挨拶
5. 出席者紹介
6. 議事

6-1 3Sのさらなる活性化について

- ・普段からユニフォームなどの作業着に気を使い、特にセイケツの部分で意識をしている。
- ・業界のイメージアップにつながるよう、車両の管理、会社周辺の清掃活動など、地域住民を交えた PR。
- ・3Sの取り組み方をマニュアル化し、小冊子にして配布する。
- ・埼玉県と産廃業者それぞれの HP での掲載などで周知活動を活性化させたい。
- ・県民の日も活かし、イベントの中身を充実させ、さらに周知していきたい。
- ・埼玉県として重視している部分があれば聞きたいです。

<産業廃棄物指導課>

- ・3S活動に注力する企業が固定化しつつあり、活動内容の類似部分も感じている。
各企業によって規模感は異なるが、新たな視点で工夫できる点などが出てくると良い。
例として、粉塵が道路に出ている場合に対して清掃活動をするなど、地域住民を交えるような PR など
そういった小さな改善を積み重ねることが結果を生み出していくと思う。

<住民より産業廃棄物指導課宛に苦情をうける実際のケースは？>

- ・粉塵、騒音、車両の出入り、事業所から瓦礫が溢れている、車両の過積載、積載物の飛散など。
あまり、声が上がっていないという点では、日々皆様が素晴らしい取り組みを行っていると感じている。
特に、埼玉県環境産業振興協会に所属する企業宛へのクレームはない。
そういった意味では、非会員の業者へ3S活動を広めていき、業界全体のボトムアップをはかりながら
一人一人の意識向上と取り組みを大事にし、少しずつ増えていけば良いと思う。

6-2 埼玉県県民の日ブース出展について

- ・昨年的好评を受け、例年同様に実施したい。さらに資源を材料としたリサイクル素材の工作も面白いのでは。
- ・展示車両にて、「パッカー車」という表記が子供たちに伝わらなかった。
「ゴミ収集車」などわかりやすい伝え方でより浸透させたい。
- ・パッと見のイベントブースのイメージが伝わりづらいという声があった。
- ・ごみを捨てるブースをつくり、出したごみがこれに代わるといったイメージを伝え、ノベルティを渡すのも面白い。
- ・県民の日、群馬県や神奈川県でもゴミ箱を設置し、分別方法の周知活動をしている。

<産業廃棄物指導課>

- ・期待していることは、体験型のイベントが喜ばれる。特に小さな子供には、ヘルメットや車両に乗るなど。できれば、体験型の催しをもう一つ増やしてほしい。リサイクルで出来たサンプル物の展示など。
- 他、周知啓発、業界イメージアップにつながるものがあれば聞きたい。
- 大手企業からは、サーマルリサイクルではなく、ケミカル・マテリアルリサイクルを求めている。
エネルギーではなく、「こういう素材になるんだ」という近代的なリサイクルが子供に伝わればおもしろい。
- ・産業廃棄物業者の良いイメージをもっと堂々とだしてほしい。
一般的に怖い業界イメージや、いらぬものを処理しているだけではない。
業界イメージを払拭させる部分も含め、リサイクルループによる展示物の掲示があると良い。
- ・パッカー車は一般ごみのイメージなので、産廃イメージになるものを展示ブースで出してほしい。
- ・3Sの周知活動も含めて、皆さんのスタイリッシュな作業着で出展するのも良いイメージにつながる。
ぜひ、次回は作業着を着用して出展に参加してほしい。

<ごみの分別意識について>

- ・例えば、家を建てるゴミが、どうなっているか、身近なものからでるゴミがどうなっているか。
他人事ではなく、自分事になっていることを意識させることが大事であり、興味をもってもらいたい。
- ・この廃棄物が何になっているか、なぜ分けることが必要なのかを教えるために、クイズ形式なども面白い。
飲料容器のリサイクルBOXの意味合いなど、分別することで処分費が安くなる、製品や出来上がる、という教育に繋がれば良いと思う。分けることによって、どうなるのかを学んでほしい。

6-3 中堅社員の定着、育成に関する取り組み事例について

- ・仕事の魅力など、事業の根幹部分をレクチャーできるように従業員へ周知させている。
役職者研修もこれから進めて、組織をしっかり作っていきたい。この仕事に魅力を感じて、長く働いてほしい。
- ・高校生の新卒採用において、社会人経験と業界知識の二つを学びながらの生活はストレスも抱える。
外部研修による同年代との交流を定期的に参加させた結果、離職率の低下につながった。
- ・プレイヤーで活躍した人が評価され管理職になった際、必ずしもマネジメント能力がある人とは限らない。
業務スキルも重要だが、管理職研修も受講してもらい、人材を育てる側になってもらう体制づくりも必要。

<埼玉県での管理職研修は？>

- ・埼玉県も同様に、プレイヤーの実績でマネジメント側になると、成果を出せないケースもある。
日本独特の体制なのか、昇進段階や条件が同じようになっているので、どこでも同様の問題が発生している。
中堅社員にはどういった部分を研修した方が良いか、皆さんのアイデアを聞きたい。

<上記質問を受けて>

- ・離職率が高い現状を受け、理由の半数が人間関係であることが判明。
人間関係の構築を目的としたセミナーなど、内面的な研修にするのが良いのでは。
- ・収集運搬業だと、ドライバーで喋らなくても良いという考えを持った人が多い。
だからこそ、改めて人間関係を潤滑にする講習会も良い。
- ・新卒社員で研修を受けた後に、フィードバックを含め、今度は教える側に回ってもらうことで復習する。
そうすると新卒から、先輩社員に積極的に話すようになる傾向がある。
- ・日頃の挨拶なども大事である。挨拶を主軸に人間関係が構築する部分もある。
- ・そういった意味では講習会より、グループワークのような積極的に発言できる機会を作るのも良いのでは。
- ・「コミュニケーション」をテーマとして検討する

6-4 高度化法について

- ・講演や講習を聞いているが、実際の法律でやれることがわからず漠然としている。
中小企業の場合、どのようなことで出来るのか具体的に教えてほしい。

<産業廃棄物指導課>

- ・国としての見解は、廃棄物処理法と同様レベルの法律にしたい意向。
- ・国は、申請件数の目標を3年間で100件。
- ・廃棄物処理の許可を取らずに処理ができる体制、高度な技術を要するもの、CO2削減の設備など。
埼玉県としても、太陽光パネルの専用処理施設が一つの事例になっている。
新たな導入を検討している企業が、許可を持たずに参入できる体制づくりを目指している位置づけになる。
- ・廃掃法の許可制度においては時間を要する背景から、認定の手続きにおいて独自の流れになると予想。
- ・現段階では明確でない部分もあり、国の動向を注視して進めていく。

<補足> 国からの3つの認定

1. 地方公共団体の区域をまたがる広域的な分別や回収
2. 太陽電池、ニッケル電池など、高度な技術を要する分離回収
3. 温室効果ガス削減の最新技術を持つ設備を導入するとき、などが対象となる

- ・認定制度と合わせて、処分業者の再資源化の報告を行っていく予定。
前年度の処分実施数量が1万トン以上、及び 廃プラ処理1500トン以上になると対象になり、
再資源化の数量を環境省に報告をする。
- ・廃棄物業者のマッチングを図りたい意向もある。今後、国からの情報が来次第、提供していきたい。

<以下、質疑応答>

- ・認定は国が行うと思うが、埼玉県ではどのような関わり方になるか。
→県は直接的に関わらないが、国に紹介するために意見を伺う予定。
申請書、審査もあると予測し、予め相談を受ける体制をつくり、助言できるようにしていきたい。
- ・処理業の許可を取得する必要があるか。
→新たに廃掃法の許可は必要ない認定になっている。
しかし認定申請の基準は、廃掃法と似ているので、同様の申請が必要になると予測。

- ・地目によって出来ない部分があるのでは。
 - 工業団地は地域の方々との認可。認定業者＝廃棄物業者という捉え方にならないと予測。
- ・何故この制度が出来たのか。
 - サーキュラーエコノミーを推進する中で、マテリアルを増やしたい意向がある為。
事前協議から3～4年かかることを、すぐに進行できるように国が進める。
- ・違反があった場合の対処は？
 - 国、または県のどちらかで管理をしていく。
- ・認定の更新は？
 - 更新はないが、適宜 事業報告は必要になる。
- ・Co2 を削減するという施設であることが前提になるか。
 - その通りです。2025 年 11 月までに本格施行される見通し。

以上



